

中学校英語における Large Grammar 法を応用したアウトプット活動 ～繋がる英語力の育成をめざして～

石田 順^{1*}・金森玲子¹・竹川由紀子¹・足立和美²

¹鳥取大学附属中学校 英語科

²鳥取大学地域学部

*E-mail: ishida_j@fuzoku.tottori-u.ac.jp

takekawa_yk@fuzoku.tottori-u.ac.jp

onishirk@fuzoku.tottori-u.ac.jp

Jun ISHIDA¹, Reiko KANAMORI¹, Yukiko TAKEKAWA¹, and Kazumi ADACHI² (¹Tottori University Junior High School, ²Faculty of Regional Sciences, Tottori University) : **Junior high school output activities based on the “Large Grammar” method — Using English as a communication tool.**

要旨 — 英語科では、学習した英語を用いて実際にコミュニケーションが行えることを目標として日常的にアウトプット活動を実践している。具体的な活動の一つとしては、共同研究者である鳥取大学地域学部の足立和美が提唱する Large Grammar の手法による活動を用いて即興でのアウトプットの場を各学年の授業に取り入れている。本研究では、その理論と各学年での活動事例を紹介する。生徒一人ひとりが課題に向かって「主体的に」「対話的に」「深く」考え、英語で他者と繋がっていくためには、どのような活動が考えられるだろうか。「個」の学びを深めるために、各学年で行ってきたやりくりを紹介する。

キーワード — Large Grammar, チャンク, アウトプット活動

Abstract — At Tottori University junior high school we practice output activities on a daily basis in our English classes with the aim of enhancing students' ability to communicate in English. These activities, using the Large Grammar method proposed by one of the authors, Kazumi Adachi, rely on improvised output. In this paper, we introduce the theory of Large Grammar, then give examples of activities used in each grade. We are aiming for activities that encourage students to think "voluntarily", "interactively" and "deeply" about the task. We also want them to connect with others in English. We will introduce the attempts that we have made in each grade to deepen students individual learning.

Key words — Large Grammar, chunks, output activities

1. はじめに

本校は、各学年4クラス(1クラス約35名)で授業を行い、日本人教師が週3時間、外国人教師が週1時間の英語の授業を担当している。小学校での外国語活動を経て、英語に慣れ親しんだ生徒が多く入学してきており、中学校では、外国語活動で身に付けた英語学習の素地を大切にしながら個々の能力を伸ばし英語の技能を身に付けていく指導が求められる。

平成25年度より英国・ニューステッドウッドスクールとの交流を行い、ペンパルや来日

時に授業での交流を続けている。特に、隔年で来日する国際交流は、学んだ英語を実際に使う場面であり生徒も楽しみにしている活動である。授業やホームステイなどの交流を通して、どのように伝えたら理解してもらえるのか、またどのように受け止めたら理解することができるのか、一人ひとりが英語を使った実践の場面を経験する。このような機会を生かしながら、英語を使ってやり取りすることの楽しさや、その必要性を考えさせながら、学んだ知識を使えるものになりたいと考えて日々の授業研究に取り組んでいる。

2. 生徒の実態

本校の生徒の英語学習における実態として、

- ・コミュニケーション活動に積極的である。
- ・異文化や外国への興味・関心が強い。
- ・語彙や表現をインプットすることが得意な生徒も苦手な生徒も見られる。
- ・インプットしている語彙を即興でアウトプットすることが苦手である。

などの様子が挙げられる。学習に前向きに取り組む一方、既習の英語を用いたやり取りに苦勞している生徒が多く、英語でのやり取りが生徒にとって簡単なことではないことがうかがえる。このような生徒の実態を踏まえたうえで、どのような活動が生徒の学びを深めていくことに効果的であるか、また、英語を手段として相手と繋がっていくためには、どのような活動が考えられるかを考え、日々の授業研究に取り組むこととした。

3. Large Grammar 活動

生徒が英語でコミュニケーションを図るためには、語いや表現の習得などのインプットの蓄積が必要である。その蓄積があつて、適切なアウトプット、すなわち「言いたいことが言える」「書きたいことが書ける」というアウトプットへ繋がっていく。コミュニケーションの場面では、即興性が求められるため、瞬時にアウトプットできるためのトレーニング活動が不可欠である。トレーニングの一例として、鳥取大学地域学部の足立和美特命教授が提唱されている Large Grammar 活動を行っている。

3.2 目的

英語を使うためのきっかけとなるチャンク（教科書で既習のものを区切ったもの）を与えてインプット活動を行い、習得した英語をリサイクルするかのように、書いたり話したりできるようなアウトプット活動へ繋げていく。

3.3 方法

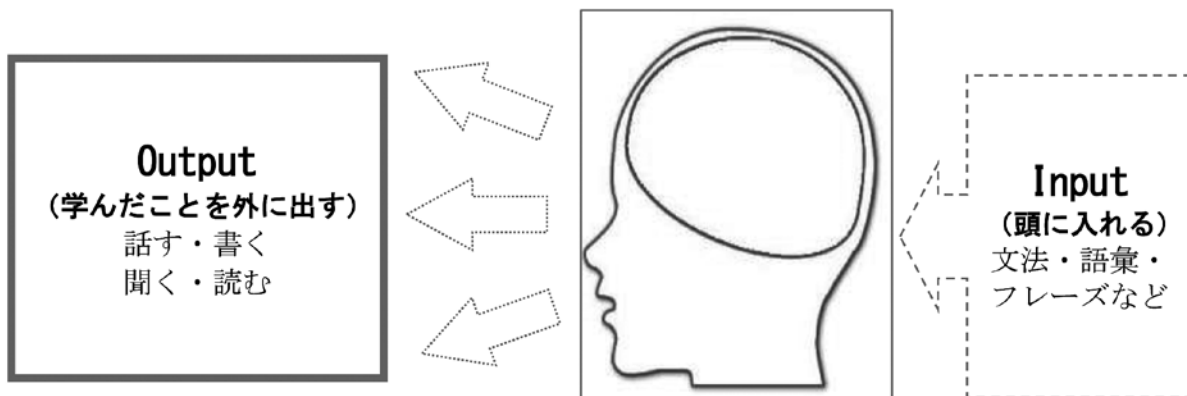
3.4 インプット活動（例）

- ①ワークシートを配布する。（図 1）
- ②ペアワークで一方が日本語、もう一方がそれをすぐに英文に直し、それが正しいかどうか日本語を言ったほうがチェックする。
- ③インプットするチャンクの数は一回につき 10 文から 15 文程度で行い、制限時間に何度かチェックを行う。

| Lesson 4 The Story of Sadako | |
|--------------------------------------|------------------------|
| チャンク集 日本語を見て、英語に直すことができますようにしましょう。 | |
| 1. ... Have you ever ...? | 1. ～今までに...したことがありますか～ |
| 2. ... Why don't you ...? | 2. ～しませんか?～ |
| 3. ... we should ... | 3. ～私たちは...すべきである～ |
| 4. ... the importance of (peace) ... | 4. ～(平和)の大切さ～ |
| 5. ... I've been interested in ... | 5. ～...にずっと興味があります～ |
| 6. ... I wanted to ... | 6. ～...したいと思っていました～ |
| 7. ... I'm glad to ... | 7. ～...してうれしいです～ |
| 8. ... in the future ... | 1. ～将来～ |
| 9. ... we can ... | 2. ～私たちは...することができます～ |
| 10. ... the experience of ... | 3. ～...の経験～ |
| 11. ... speak three languages... | 4. ～3か国語を話す～ |

図 1

3.1 Large Grammar のイメージ



3.5 アウトプット活動（基本編）

Combination Activity

意味の区切り（チャンク）に分けたものを組み合わせて新しい文をつくる活動

- ①チャンク表（図1）のチャンクとチャンクを組み合わせて、新しい英文を作る。
- ②そのままでは組み合わせにくい表現は、意味が通る英文へ組みかえて英文を作ることも可能。

意味の区切り（チャンク）に分けたものを組み合わせて新しい文を作る。

1. ○○○○○
2. ●●●●●
3. △△△△△
4. ▲▲▲▲▲
5. □□□□□
6. ■■■■■

$$1 + 3 = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$5 + 2 = \underline{\hspace{2cm}}$$

例文

チャンク 3 + チャンク 11

= We should speak three languages.

チャンク 9 + チャンク 4

= We can (learn) the importance of (peace) .

Combination 活動では、表現の広がりには限定されるが、チャンク同士を繋げるために後に続く品詞や文法を確認させることができる。アウトプットの初級的な活動である。この活動では、英語が苦手な生徒でも大まかな意味さえ理解すれば、どの英文とどの英文がマッチングするかのイメージがつかみやすいという利点がある。

アウトプット活動（応用編）

Expansion Activity

意味の区切り（チャンク）に分けたものに、自分のアイデアを足して新しい英文をつくる活動

- ①チャンク表（図1）のチャンクの前、または後ろに自分の知っている語を加えて、新しい英文を書く。
- ②制限時間内にできるだけ多くの文を書く。（5分程度）
- ③ペアで作った英文をシェアリングする。互いのアイデアを共有し次の活動につなげる。

意味の区切り（チャンク）に分けたものに自分のアイデアを足して新しい文を作る。

$$1 + X = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$X + 4 = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$1 + X + Y = \underline{\hspace{2cm}}$$

Expansion Activity 活動では、チャンクに知っている表現を加えて単文を書くことからスタートする。時間を限定することで、生徒はできるだけたくさん書こうと意欲的に取り組む。チャンクの表現をイメージして、それに繋がる語いや表現を考えることでその情景を広げていく。



例文 下線部はチャンク

生徒 A

Have you ever played soccer?

I've been interested in it since I was a little.

Why don't you go to the park to play it?

I'm glad to play with you.

生徒 B

I wanted to be a doctor.

I wanted to see pandas.

I wanted to be a vet.

I wanted to be a nurse.

生徒 C

Have you ever been to Okinawa?

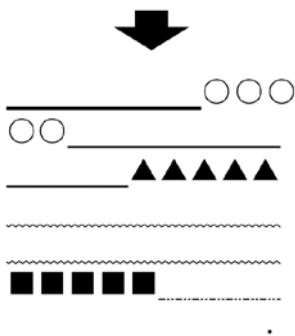
Why don't you go hopping with me?

I've been interested in basketball.

I wanted to watch TV with you.

生徒の書いた例文を紹介している。単文をたくさん書く活動であるが、慣れてくると生徒が一文からイメージをふくらませて関連性のある表現を書いている様子が分かる。生徒 A は、サッカーをテーマにしてチャンクを用いた繋がりのある英文を書いた。生徒 B のようにチャンクに繋がる語いをたくさん書く生徒もあれば、生徒 C のように完全に独立した英文を書く生徒もある。同じ指示を与え、ワークシートを用いて取り組んだ生徒のアウトプットが多岐にわたるのは、個々の想像力とやりくりに起因するところが大きい。

教師が選んだ3つのチャンクを含み、自分のアイデアを駆使して新たな物語を作す



アウトプット活動（発展編）

Advanced Expansion Activity

教師が選んだ3つのチャンクを含み、自分のアイデアを駆使して新たな物語（会話）を作る活動

- ①指定されたチャンクを使い、ある程度意味の通ったストーリーになるように英文を作る。会話形式でも物語形式でも構わない。
- ②制限時間は6分間。
- ③数名の生徒の英文をボードに書いて全体で共有する。

例文

下線部は指示されたチャンク

生徒 A

A: Have you ever been to Australia?

B: No, I haven't. I wanted to go there when I was a child.

A: Really? Me too. Why don't you go there this weekend?

B: Good idea! We will have a good time.

(37 語)

生徒 B

A: Have you ever been to New York?

B: No, I haven't, but I've been interested in New York since I was a little.

A: I'll visit there tomorrow. Why don't you go there?

B: Really? I'd love to.

(35 語)

生徒 C

I've been interested in sushi. Sushi is Japanese original food. When I have a good thing, I usually go to sushi shop. I think sushi is the most delicious food in the world. Why don't you go to sushi shop with me? (42 語)

生徒は実によく考えて英文を作っている。実際にはあり得ないであろう出来事を英文の中で面白く表現できることもこの活動の楽しさである。Why don't you ~ ? などを用いるには物語形式

よりも会話形式でストーリーを考える生徒が多くみられた。指示するチャンクによって、会話の方が話題を展開しやすいものもあれば、物語としてイメージをふくらませやすいものまでさまざまである。教師が指示するチャンクを使うことはもちろんだが、それに加えて自分の知っている語いを引き出して、場面の中で使えるようにするために生徒たちは短い時間でさまざまなやりくりをして英文を書いている。スペルミスが見られたり、文法的に正しくない表現を書いたりすることがあるが、失敗をおそれずにどんどん発信させることがまずは大切なことである。Large Grammar 活動を行う中で、生徒たちは、授業で学んでいる英語がどんな場面で使われる表現なのかを考えて、「こんな場面で使えるな、いつか使ってみたい」という意識で学習に取り組むようになってきた。

学んだ英語を生徒が使えるようにする活動の一例として、Large Grammar 活動を紹介した。次に、各学年で取り組んだ授業実践の様子を紹介する。

4. 1年生の取り組み

4.1 はじめに

今、英語教育を巡る状況が大きく変わりつつある。新学習指導要領（平成29年3月告示）において、小学校中学年に外国語活動、高学年に外国語が導入された。平成30年、31年の学習指導要領移行期を経て、平成32年度から全面実施である。現行の学習指導要領では5、6年生対象だった「外国語（英語）活動」を3、4年生対象に引き下げ、5、6年生では英語を「教科」とするよう定めた。これまでは、親しみを持たせる目的だから中学英語の前倒しはしない、文字は教えないという方針だった。それが、これからは正式な教科なので、検定教科書があり、もちろん文字を教え、簡単な文法も教え、成績評価もある。小学校4年間の英語授業で、600～700語程度の単語を覚えることになっている。また中学校への接続を図ることを重視することが求められた。

小学校での外国語導入を受け、中学校の英語教育も当然変えなければならないだろう。これまでのような初期の文字指導（アルファベツ

ト）やフォニックスのような音声指導から始めるのではなく、英語でのコミュニケーションを重視した指導や言語活動を入学当初から積極的に進めていかなければならない。新学習指導要領でも外国語科の目標は「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することとしている。これまで以上に英語「を」どう学ぶかではなく、英語「で」何をやりとりするのか、に重きを置いた指導に心がけなければならない。

しかし、中学生になると小学校時ほど積極的な発話をしようとしなくなる。それは、学習の難易度が上がることだけでなく、自意識が育ち、正確さへのこだわりや不安が増大する認知的発達段階へ入るといった学習者自身の変容にもある。そういったことも踏まえつつ、中学生のコミュニケーション能力を高める効果的なアプローチを模索する必要がある。

正確さへのこだわりや不安が顕著に見られるのは、ライティング活動である。生徒にとっては文字として残る自身の英語表現に対して、スピーキング以上に正確さを追求するあまり、相手を意識したコミュニケーションツールという認識が希薄になりがちでもある。そこで、本学年では、今後新学習指導要領のもと小学校外国語を学んだ生徒に対して、中学校1年生での英語学習をどのように展開していけば良いか、特にライティング活動における意欲（Motivation）と正確さ（accuracy）を中心に考察していきたい。

4.2 相手を意識したコミュニケーションツール

ライティングなどのアウトプット活動には言葉と心の結びつきを重視した指導が求められる。つまり、相手を意識したコミュニケーションツールとして英語をとらえることにより、自身の英語表現を相手との関係性や表現したい内容によってやりくりしながら紺が得ていく姿勢が育まれるであろう。中学校での英語学習をスタートさせたばかりの第一学年にとって、英語を単なる教科の1つとしてではなく、相手とつながるツールであることを伝えることは、担当教員としての責務である。

本校では2014年度から英国ニューステッドウッドスクールとの交流を行っている。日常の活

動としては両国の生徒が授業で書き上げた英作文（英国にとっては日本語作文）を送りあったり、それぞれの言語を用いた作品を紹介しあったりしている。また個別の生徒同士のペンパル活動なども随時行っている。2015年度と2017年度にはニューステッドウッドスクールの生徒が来日し、4日間程度生徒の家にホームステイをし、授業でも交流を深めている。生徒には上記の交流をこれからも続けていくことを伝えると、目を輝かせながら早く交流したいと訴えてくるほどであった。

4.3 教科書での気づき

常に相手を意識した授業を行うことで、授業で扱う教科書を読む生徒の視点も変わってきた。1年生の教科書「Lesson 1 I am Kumi」に相手のいった言葉を聞き返す場面がある。登場人物の台詞は「Pardon?」だが、pardonにはそもそも『もう一度言ってください。』という意味はない。本来の意味は『すみません。』という許しを請う意味である。自分が言った言葉に対して「すみません」と答えられたら、言った方は「自分の言葉が聞き取れなかったのでは」と考え再び言い直すのである。

そのことを授業で確認すると、生徒から「では、ほかの『すみません』でも意味が通じるのでは？」とのつぶやきが上がる。そこで、どのような言葉がここで当てはまるか考えさせると、Excuse me? や I'm sorry. がすぐさま思い浮かぶのである。生徒はこの瞬間に英語が生きた言葉であることを実感する。その経験を踏まえた生徒は、このあと自分が表現する言葉に対して、機械的な翻訳をするのではなく、その表現がどう相手に届くかを考えながら表現しようとする。

4.4 クリスマスレターづくり

クリスマスシーズンに合わせてグリーティングカード作りに取り組んだ。生徒自身が、好きな海外のスポーツ選手やアーティストなどにクリスマスのメッセージをかき、自分で封筒に詰め、郵便局に持って行って、実際にお金を払って送る。たとえば送りたい相手がスペイン人なら、英語のメッセージに加えて、スペイン語のあいさつを自分で調べ、カードに書いてみる。相手の目にと

まるように色をつけ、自分がどれだけその人のことを気に入っているかをできる限りの言葉で綴る。やりくりの先にいる「英語を伝えたい相手」をしつかりと見据え、精一杯の言葉を考える活動である。

生徒は2通の手紙を書いた。1つはサンタクロース。もう一つが海外の有名人（セレブライター）である。サンタクロースへの手紙では生徒の意識は中身と言うよりも見た目を重視しているようである。メッセージもシンプルなものが多く、手際よく書いている印象だ。

しかしセレブライターになるととたんに生徒の様子が変わる。いかに相手に伝えるか、内容を重視した手紙をつくらうとする。いくつかのクリスマス用のフレーズは紹介したが、それ以外の英文も自分で辞書などを参考にしながら書いている姿が見られた。

【この取り組みを振り返って】

☆相手に読んでもらうことで、字の間違いをなくすように気をつけました。

☆セレブに書いているときに、普通に手紙を書いている感じですごく楽しかったです。

☆実際に普通の手紙を書こうとすると、文章の決まりや習っていない単語を使うなどなかなか難しかったです。

☆セレブは結構返ってきた人がいたので、自分も帰ってくると期待して待っていたのに、来なくて結構がっかりしました。

☆相手に伝えたいことをうまくかけなかった。しかし結構楽しかった。

☆セレブの人に対する自分の気持ちを英語で書くのが難しかった。

☆返事が返ってきた人もいたので、送れば良かったと思いました。

☆今年は日本をアピールして、セレブの目にとまるようにしたいです。

☆英語の書き方の勉強になるし、セレブの返事が来るかわくわくするので、とても楽しかったです。

4.5 今後の課題

ライティング指導において、書こうとする意欲（Motivation）と正確さ（accuracy）の両立は時にして困難を感じる時がある。前述したとおり、

正確さへのこだわりや不安が顕著に見られるのは、生徒の発達段階から見れば妥当なのかもしれない。しかし、今回相手を意識した活動を重ねることで、「受け取る相手に失礼のないように」「相手が読んでくれるから少しでも丁寧に」という感想をみることができた。今回の継続した活動が意欲と正確さを両立させた取り組みのきっかけになるかもしれない。来年度は英国からニューステッドウッドスクールの生徒も来日する。これまで以上に人と人とのつながりを意識した英語学習を積み重ねていきたい。

5. 2年生の取り組み

5.1 はじめに

中学校で英語を学習する2年目を迎えた生徒たちに対して、学年当初、送ったメッセージがある。それは今年度のテーマをQR (Quick Response : 即答) として英語を学習していくというものである。将来的に、人が話す英語を聞き、それに対して英語で即答ができるようになることを目指しており、さまざまなトレーニングを通して、英語力を高めていくことを目標としている。年度当初、生徒たちに「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能のうち、最も身につけたい能力について尋ねたところ、約8割の生徒が「話す」力をつけたいと回答している。では外国語を話すために、私たちはどんな力をつけておかなければならないのか。話す力を育成し、高めるためには、リーディングやリスニングなどのインプット(入力)とインテイク(内在化)が不可欠である(泉、2017)。英語が使えるようになることをめざし、まずは英語を頭の中に入れ(インプット)、そのインプットした英語を使うことで話したり書いたりするアウトプット活動を取り入れながら、授業を進めている。

5.2 インプット活動

私たちは幼い頃、どのようにして母国語を獲得してきたのだろうか。多くの人が、いつのまにか母国語を話すようになっていたはずである。心理言語学者である広瀬友紀氏は、子どもが言葉を獲得することに関して、「私たち大人が自力で思い出せない、『ことばを身につけた過程』、直

接のぞいて見られない『頭の中のことばの知識のすがた』を、子どもたちの助けを借りて探ってみましょう。」と自身の著書の中で述べている。子どもが母国語を身につけた過程を検証し、その過程を外国語習得の過程に応用することができれば、英語が簡単に話せるようになるだろうか。1960年代にフランス語を話すカナダの親たちの中で始まったとされるイマージョン教育(原義は「その環境に浸り習得する」)のように、英語の環境に置かれることで英語に親しみ、英語を習得していくという方法も現在までに試みが行なわれている方法の一つである。しかしながらフランス語が公用語でありかつ英語話者にとっては第二外国語という位置づけのカナダ。一方、教室から一歩出れば、日本語にあふれている世界で生活している人がほとんどであると考えられる日本。私たちにとって英語を使うことは非日常であり、生きていくためには日本語のみわかっているならばほど困ることがないため、両国の違いを考えれば、日本では「外国語」である英語を母国語のように身につけていくことは簡単ではないと考える。

このように、多くの生徒は英語がわからなくても支障がない環境で生活しているため、英語を教えるうえで私が常に頭に置いていることが2つある。それは英語に生活感を持たせることと、外国で起きていることと生徒とをつなげる話題を提供することである。新しい英語と生徒が出会う場面では、学校の教師や若者に人気がある有名人や外国の子どものことなどを英語で聞かせるようにしている。初めての英語が使われていても、予想がつきやすく、生徒が「何となくわかる」ことからの出発である。その授業の一例をここで紹介する。

不定詞・副詞的用法を使った授業の実践例

○英語圏の子どもたちが行っている School Fundraiser (チョコレートを売るなどして学校の資金を集める活動) について

カナダに住む友人が自身の姪のためにチョコレートを買ってくれる人を募っていたことから、友人が来日の際に、私も School Fundraiser に協力できることとなり、この授業の考えを得た。ま

ずは School Fundraiser の様子の写真と実際に子どもたちが売るチョコレートを見せ、何をしているか予想をさせ、ペアになり英語で話した。



カナダの School Fundraiser でよく使われる
チョコレート

話し合い後、写真の中の子どもたちが自分たちの学校の資金を集めるために、チョコレートを売っていることを伝える。まずは既習の英語で写真の説明をし、その後、カナダの子どもたちの現状について新出文法（不定詞・副詞的用法）を使い、説明する。

They are selling chocolate because they want to collect money for their school.

Many children in Canada sell chocolate to collect money for their school.

日本ではあまり聞きなれない School Fundraiser の活動に生徒は驚き、興味を持ち、チョコレートを売る以外の School Fundraiser について質問をしたため、車を洗ったり、コンサートを開いたりすることもあることを紹介しに置き換えて英語を言う練習をした。

Some wash cars to collect money for their school. Others have a concert to collect money for their school.

新しい文法に出会ったあとは、文法によっては直後にアウトプット活動を進める場合もあるが、今回の文法は語順に問題を抱える生徒を過去に多く見てきたため、語順を習得できるようなインプットを重視した活動を行った。

• Who

Mr. Murayama Mr. Yamawaki Mr. Hattori
 Ms. Kamikawa Mr. Kimura
 Ms. Rie Okumura Shirley-sensei

• what she/he does/did

drinks *maitake* tea almost every day
 watches News Zero on weeknights
 will go to Hiroshima this weekend
 wants to go to a concert
 went to Mt. Hyonosen on Sunday
 bought a lot of watermelons
 went to a craft shop

• to do what

- to buy some keychain kits
- to study math
- to heal her mind
- to know what is happening in the world
- to stay healthy
- to look at the autumn leaves
- to make some ice cream

| Teacher's Name | what she/he does/did | to do | what |
|----------------|----------------------|----------------------|-------|
| ① () | | <input type="text"/> | |
| ② () | | <input type="text"/> | |
| ③ () | | <input type="text"/> | |
| ④ () | | <input type="text"/> | |
| ⑤ () | | <input type="text"/> | |
| ⑥ () | | <input type="text"/> | |
| ⑦ () | | <input type="text"/> | |

Who, what he/she does/did, to do what を順につなげて文を作るこの活動は、今までの授業で小出しにしてきた情報が網羅してあったため、興味を持ちやすく、真剣に取り組めていたようであった。

このような活動に加え、重視しているインプット活動に音読がある。普段使い慣れない言語を用い、思ったことを話せるようにするためには、その言語を何度も聞き、口に出すことは不可欠だと考える。教科書の本文を覚え、自分の頭の中の英文を増やしていくことを目的に、通年で取り組んでいるのが音読における工夫である。教科書の内容の確認後、2種類の音読用ワークシートを用い音読をしている。1つ目は、現在京都外国語大学・短期大学で教鞭をとっておられる安木真一先生が数年前にされた達人セミナーで紹介された実践をもとに作ったサイトラシート (Simultaneous Sheet: 同時通訳シート) を利用し、音読に取り組んでいる。

Lesson 3 The Ogasawara Islands P.26

Kumi: It's almost noon. I'm going to leave soon.
 Paul: Are you? Why?
 Kumi: I have a kendo test. Are you going to stay until the final talk?
 Paul: Yes, I am. I'll get the handouts for you.
 Kumi: Thanks.
 Paul: It's nothing.

| | | |
|-----------------------|---------------|---|
| It's almost noon. | もうすぐ正午だね。 | □ |
| I'm going to leave | 出なさい。 | □ |
| soon. | すぐに。 | □ |
| Are you? | 本当? | □ |
| Why? | どうして? | □ |
| I have a kendo test. | 剣道の試験があるの。 | □ |
| Are you going to stay | あなたはいるの。 | □ |
| until the final talk? | 最後の講演まで。 | □ |
| Yes, I am. | そのつもりだよ。 | □ |
| I'll get the handouts | プリントをもらっておくよ。 | □ |
| for you. | きみの分も。 | □ |
| Thanks. | ありがとう。 | □ |
| It's nothing. | どうってことないよ。 | □ |

久美：もうすぐ正午だね。すぐに出なさい。
 ポール：本当？ どうして？
 久美：剣道の試験があるの。あなたは最後の講演までいるの？
 ポール：そのつもりだよ。きみの分もプリントをもらっておくよ。
 久美：ありがとう。
 ポール：どうってことないよ。

上部に教科書に記載してある文（会話文）、中間部にある意味の区切りで分けた英文の横には対応する日本語訳、最下部には日本語訳を載せている。会話文の際には、人物によって書体を変え、会話の区切りがわかりやすいようにしている。

このサイトラシートを使い、リピートリーディング（教師や音声聞いた後、それをまねて読む）、オーバーラッピング（音声通りに再生読みをする、生徒には音声をなぞるように読むよう伝えていく）、シャドーイング（聞いた英語の音声を覚えて、思い出して言う）、トランスレーション（日本語を英語にしながらか読む）のうち最初の3つを主に全体で行う。サイトラシートを利用した後は、2つ目の Reading Drill（音読ドリル）ワークシートに移る。

サイトラシートによる音読を 1st Step と位置づけ、Reading Drill には 2nd Step, 3rd Step, 4th Step, Translation (Special Trial) を設け、段階的に難易度を上げていくようにしている。

Reading Drill Lesson 2 USE - READ P. 24, 26

Class: No: Name:

2nd STEP ※本文に合うように動詞の形を変えて読みましょう。

p.24
 Earth Festival at Midori Public Hall
 Date: July 4
 Time: From 10:00 a.m. to 4:00 p.m.
 Fee: Free
 Join the games. Listen to the talks. You (learn) about nature and the earth. It will (is) fun.

p.26
 Kumi: It's almost noon. I'm going (leave) soon.
 Paul: Are you? Why?
 Kumi: I have a kendo test. Are you going (stay) until the final talk?
 Paul: Yes, I am. I'll get the handouts for you.
 Kumi: Thanks.
 Paul: It's nothing.

3rd STEP ※ () に適する前置詞を入れて読みましょう。

p.24
 Earth Festival () Midori Public Hall
 Date: July 4
 Time: () 10:00 a.m. () 4:00 p.m.
 Fee: Free
 Join the games. Listen () the talks. You will learn () nature and the earth. It will be fun.

p.26
 Kumi: It's almost noon. I'm going to leave soon.
 Paul: Are you? Why?
 Kumi: I have a kendo test. Are you going to stay () the final talk?
 Paul: Yes, I am. I'll get the handouts () you.
 Kumi: Thanks.
 Paul: It's nothing.

4th STEP ※ () の英語の意味が通じる順に変えて読みましょう。

p.24
 Earth Festival at Midori Public Hall
 Date: July 4
 Time: (a.m. / 4:00 / From / 10:00 / to /) p.m.
 Fee: Free
 Join the games. Listen to the talks.
 You (and / about / learn / will / nature) the earth.
 It (be / fun / will /).

p.26
 Kumi: It's almost noon. I'm (going / leave / soon / to).
 Paul: Are you? Why?
 Kumi: I have a kendo test.
 Are (final / going / stay / the / to / until / you) talk?
 Paul: Yes, I am. I'll get the handouts for you.
 Kumi: Thanks.
 Paul: It's nothing.

Translation (Special Trial)

| | |
|--|--|
| <p>p.24 アース・フェスティバル 緑ホールにて 日付：7月4日 時間：午前10時から午後4時まで 料金：無料 ゲームに参加してください。講演をどうぞ聞いてください。自然と地球について学ぶことができます。楽しいものになるでしょう。</p> | <p>p.26 久美：もうすぐ正午だ。すぐに出なさい。 ポール：本当？ どうして？ 久美：剣道の試験があるの。あなたは最後の講演までいるの？ ポール：そのつもりだよ。きみの分もプリントをもらっておくよ。 久美：ありがとう。 ポール：どうってことないよ。</p> |
|--|--|

- 2nd Step : 動詞を適する形に変えての音読。
- 3rd Step : 空欄に前置詞を入れての音読。
- 4th Step : 各課で学習した新出文法を中心に語順を変えたものを正しい順序にしての音読。
- Translation (Special Trial) : 日本語訳を英語にしながらの音読。

1～2回は全体での音読をするが、その後はペアでの活動となる。お互いに自分の音読したいステップを選び、音読し、お互いに聞きあい、教え合いをする。インプットのための音読ではあるが、時には、会話のあとに続く新たな会話をやりくりして付け加え、音読の発表をすることもある。また先に紹介したサイトラシートにはチェック表をつけており、教科書やサイトラシート、Reading Drillを音読した場合にチェックし、10回音読することを目標にしている。

5.3 インプットからアウトプットへ

外国語を習得する際に力をつけられる学習方法の一つに、ディクテーションがある。聞いた外国語をそのまま書き取っていく活動である。ではディクテーションではなく、よく聞き慣れた「リスニング」と聞くと、どんなことを思い浮かべるだろうか。「聞く→問題を解く→答え合わせをする→間違っていたところの SCRIPT をちらっと確認する」が主流だと思われる。しかしながら、将来的に英語が使えるようになることを目指した場合、答え合わせをしてから後のトレーニングをし、わからないことをなくしていく方法をとることも重要だと考える。灘中学校・灘高等学校の英語科教師である木村達哉氏は自身の書いたリスニングのワークブックの中で「クイックレスポンスができる単語でないと『自分が使える単語』とは言えません」と述べている。リスニング問題をして、聞いて意味が分かり正答が導き出されたとしても、その英語を自分が使って話せるとは限らないということである。そこでリスニング力をスピーキング力に変換するために(木村、2017)、ディクテーション活動も取り入れている。

- ① リスニング問題を聞き、問題を解く。
- ② 答え合わせをし、日本語の訳を確認する
- ③ リスニングの問題文の聞いた具合を自己評価
- ④ ディクテーション (聞いた英語を書き取る)
- ⑤ 知らない単語を確認
- ⑥ 練習音読練習
(オーバーラッピング、シャドーイング)
- ⑦ リスニング問題の日本語訳を英語に直す
(バックトランスレーション・ライティング)

木村達哉 (2017) 中学英語まるまるリスニング BOOK 基礎での学習内容を引用

上記のものは、ワークブックを使っての家庭学習で主に行っているが、授業中であれば、音読活動の後に、読めるようになった英語を聞き、実際に書けるようになっているかどうかの確認を行っている。

| | | |
|---------|------|--------|
| Class : | No : | Name : |
|---------|------|--------|

Dictation Fill in the blanks.

Ken: What's next? () () ()

Emma: () () () () () ()
on the Ogasawara Islands?

Ken: What is it about?

Emma: It's () () () () () tourism.
() () () that it'll () () ()

Ken: I agree. () () () () () World Heritage Sites too.

Dictation Write the whole sentences.

Ken : _____

Emma : _____

Ken : _____

Emma : _____

Ken : _____

生徒は穴埋めか文全体を書くものかどちらかを選び、ディクテーションをする。

5.4 アウトプット活動

英語で何か伝えたいことがあるとき、生徒はどうしているのだろうか。今まで学習したことを思い出し、やりくりし、何とか文の形にして発話したり書いたりしていると考えられる。そこで、時には即興で相手の質問に反応せねばならないこともあるため、学習した英語にさっと反応 (Quick Response) し、自分のことを英語で答える活動を行った。生徒があらかじめ考えた質問 (やりくりして考えた英文: 文法条件「if を使い、もし～ならば、何をするか」) に、その質問内容を全く知らない生徒が即興で答えるインプロブ (improvisation の略: 即興) 活動を行った。一人の生徒が、質問が書かれたカードを袋から抜き、ペアの生徒に質問し、質問された生徒は3秒以内に答え始めることを原則とした。

質問の書かれたカード

- ① If you can fly, where will you go?
- ② If you use a Doraemon's item, what will you use?

① I will go to Okinawa.

② I will use "Dokodemo Door."

質問を考える段階でも、様々な意見が出ており、新学習指導要領では中学生で学習する内容となる仮定法を使った方がよさそうなものもあったので、今後 if を扱う場合には注意が必要だと感じた。また質問された生徒の答えについては、どのような質問に対しても答えとなりうる英語 (If you go to the U.S.A, what will you do? に対して I will eat hamburgers. と答えた生徒がいた場合、その次の生徒も If you have a lot of money, what will you do? に対して同じく I will eat hamburgers. と答える) を繰り返して使う傾向があり、予めほかの生徒が答えたこと以外の内容で答えるよう指導する必要があると感じた。このような活動をする、生徒が即興で頭に浮かべ、話せる語彙というのは非常に限られており、どのように既習の英語を使える英語にしていくかの課題が見えてくる。

インプロブ活動以外では、たいていの授業で新出文法を使いペアワークを行った後、それを書く活動に移行させる学習をしている。

この例は接続詞の特に I think (that) ~ . の文に特化した活動である。クラスの友達に表の中の Question からトピックを一つ選び、そのことについてどう思うかを質問し、その意見を聞き、記録を取る。そしてその記録を元に Mr. XXX thinks that ~ . と書く練習をする。ここまでは全員が取り組み、それ以降もできそうな生徒は、1つ自分自身がそう思う理由も because 主語 動詞の形で書き、I think that ~ . の文を完成させる。

Do you think ~ ?

Class: No: Name:

下の表にある内容について、お友達にインタビューをして、意見を聞き取ろう。
 質問文: Do you think that it will be rainy tomorrow?
 答え方 (そう思う): Yes, I do. I think that it will be rainy tomorrow.
 (そうは思わない): No, I don't. I don't think that it will be rainy tomorrow.

that は省略可能。インタビューなので、it will を ばい と短縮して書いてもよい。

| Question | Your Friend's Name (who answered YES) | Your Friend's Name (who answered NO) |
|--------------------------------------|--|---|
| that it will be sunny tomorrow | | |
| that Tottori is a beautiful place | | |
| that English is important | | |
| that video games are interesting | | |
| that our school is clean | | |
| that Japan is a peaceful country | | |
| that running a long distance is hard | | |

YES! S thinks that _____ .
 ① _____
 ② _____

NO! S doesn't think that _____ .
 ① _____
 ② _____

Challenge: 上の項目について、1つを選び①自分の意見と②それに理由をつけて書いてみよう。
 ex) I think that it will be rainy tomorrow because I can see many clouds in the sky.

最後に、鳥取大学の足立特命教授が提唱する Large Grammar の考えに基づいて実施している英借文について紹介する。「『英作文の極意は英借文』』と言われてるように、自然な英文にたくさん触れ、パターンを『拝借する』ことが、英文ライティングの第一歩です。」と言うのは実務翻訳家である佐藤翻訳事務所の佐藤洋一氏である。生徒たちは、新出文法や教科書の内容を学習した後、その文法や表現を「拝借」することで、自分で新たな英文を作るようにしている。英借文は生徒がやりくりをする活動として重要視している。その日学習した文法を駆使し、やりくりすることで、忘れないうちに英文を作る。そうすることで記憶を確かなものにしていくのが目的である。生徒が授業で使うノートは英借文のために線で区切っているのだが、数行なのでちょっとしたスキマ時間を使いアウトプット活動ができる。少しのことではあるが、生徒が学習したことを定着させるには重要な活動だと考えている。

英借文のために、ノート1ページを3か所に区切り、板書を取るスペース、メモを取るスペース、英借文をするスペースに分けている。板書では、その日の授業で鍵となる文法事項や表現を書くため、英借文では自然とその文法などを参考にして英文を書くこととなる。

Lesson 1 Mon, April 13th

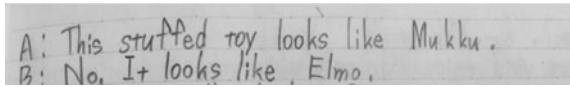
授業の板書を写す

ノートの下から5~7行程度の場所がやりくり(「英借文」)をする部分。学習した英語(動詞、名詞、場所、時など)を少しずつ変化させながら、書くことで、表現力アップを目指そうとしている。

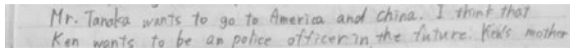
メモ欄として使う。教師がつぶやいたこと、黒板にメモしたことなどを生徒の裁量で書く。

英借文を意識したノートの使い方

生徒の英借文をいくつか紹介する。
look like 名詞 (～のように見える)

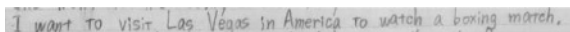


不定詞・名詞的用法 (～したいなど)



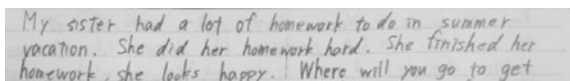
think that Ken wants to be a police officer in the future.

不定詞・副詞的用法 (～するために…する)



I want to visit Las Vegas in America to watch a boxing match.

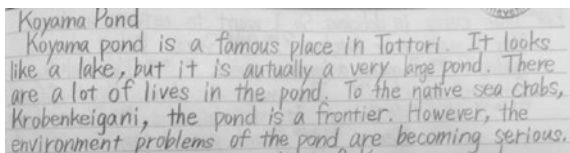
不定詞・形容詞的用法



My sister had a lot of homework to do in summer vacation. She did her homework hard. When she finished her homework, she looked happy.

New Crown English Course 2

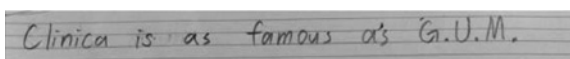
Lesson 5 Uluru 学習後の英借文



Koyama Pond

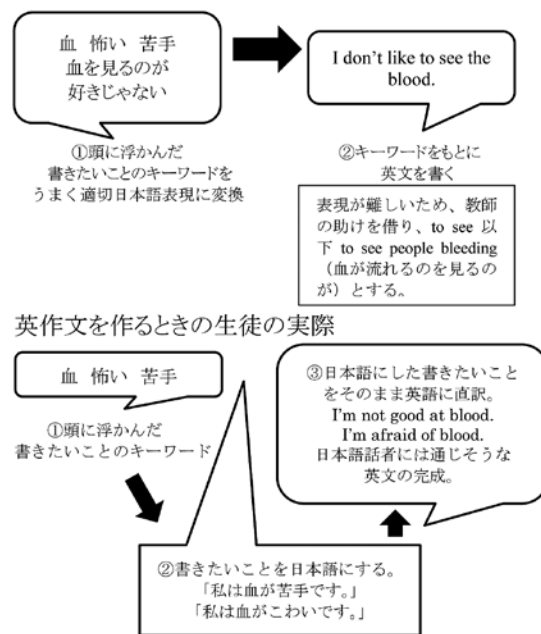
Koyama Pond is a famous place in Tottori. It looks like a lake, but it is actually a very big pond. There are a lot of lives in the pond. To the native sea crabs, Kurobenkeigani, the pond is a frontier. However, the environmental problems of the pond are becoming serious.

as 形容詞 as (～と同じくらい…だ)



Clinica is as famous as G.U.M.

英借文以外のアウトプット活動としては、スキットやカード作り、スキットやスピーチ発表なども随時行っている。スキットでは、与えられた文法を使って会話を広げていくものを多く実践し、人にわかりやすく伝えるための声の大きさや話し方、身振り手振りの工夫に力を入れている。「私の好きな人物」カード作りや「私の夢」についてのスピーチづくりでは、自分が書きたいことをなかなか英語でうまく表現できないという壁にぶつかる経験をした。どうしても日本語の影響が払拭できない英作文を書いてしまう生徒が多くいた。



英作文を作るときの実情の姿

今回紹介した生徒の実情をみると、実際に生徒たちが書きたいことを英語で書くことは非常に難しい。日本語の感覚が英語で表現する際には異なっており、自分の考えたキーワードを既知の英語にうまく変換する能力も必要である。やはり多くの英語表現を頭に入れ(インプットし)、それを英作文として書ける(インプットする)ようにできるとよいと考えるが、現状では今回紹介した学習方法を継続することを目標としている。

5.5 おわりに

外国語を習得するには時間がかかり、すぐに成果を出すことは難しい。そこで、「将来的に使える英語」の習得を目指し、タフではあるが

効果のあるトレーニングを積んでいく中で、少しずつ使える英語力がつけさせたいと考えている。国の政策により数年おきに方針が変わる英語教育界ではあるが、その政策により学習方法を変えるのではなく、英語を習得するための基盤となる不変の学習方法を身につけ、自学できる生徒として、将来につなげたいと考えている。ただ、英語を表現するとき生徒がするエラーについての扱いをどうしていくかが今後の課題の1つとして浮かび上がってきている。である。足立先生が提唱されている Small Grammar も参考にしながら、今後考えていきたいと思っている。

おわりに、思いついた考えを形にするために時間を割き、ご協力くださった2年団の先生方、また相談させていただいたときの的確なご助言を下さったり、参考文献を貸して下さったりした先生方にこの場を借りて感謝申し上げたい。

6. 3年生の取り組み

6.1 はじめに

外国語科の主たる目標は、「簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」である。実際、英語でやり取りできる力をつけたいと考える生徒は多く、毎時のように行うペアワークには意欲的で英語を使ってコミュニケーションを楽しんでいる。一方、既習の英語を用いたやり取りに苦勞している生徒が多く、英語でのやり取りが生徒にとって簡単なことではないことがうかがえる。このような生徒の実態を踏まえたうえで、まず、アウトプットの場面を与え、その活動を通して自分に必要なインプットを考えさせることにした。英語を手段としてコミュニケーションを行い、発信したり相手の気持ちを受信したりする体験を通して生徒はどのように学ぶ意識を変化させていくのか、発信力を支える活動をやりくりしながら授業研究に取り組んだ。

6.2 生徒が英語を学ぶ意味とは何か？

「英語が話せるようになりたい」「英文が読めるようになりたい」「外国の人とコミュニケーションを取りたい」など、生徒は～できたらいい的な展望を心に抱いている。確かに英語を思うように使

えれば可能である。では、授業でその力が生徒自身についたかどうかを確認したり、クラスメートが英語を駆使する様子に刺激を受けたりする機会が十分に授業の中で取れているだろうか？生徒たちは、授業の中で毎時出てくる新出単語や表現を習得し、それをインプットして使える準備を行う。生徒がインプット活動に取り組むとき、英語教師の役割には、

- ①その語や表現の意味や発音を正しく指導すること
- ②どんな場面で用いられるのか言語の使用場面を理解させること
- ③実際に使えるかどうかを体感させること

などが挙げられる。授業で行うインプット活動が発信するための活動であることを意識させて取り寄せた。生徒は徐々にインプットとアウトプットの活動が繋がっていることに気付く。そのサイクルを学習の中で繰り返すことでインプットは単なる話込み、暗記ではなく、発信を支える語いや表現の蓄積となる。学ぶ意欲は、英語を学ぶ面白さだけでなく、学ぶ必要性を意識させることでより深まっていく。指導にあたっては、生徒に多くの指示を与えないことを意識した。単に、アウトプットの場面をいくつか設定した。生徒は活動を通して、学んだ英語を使えることも使えないことも知り、自分に足りないものを補っていくような学習を繰り返す。大切なのは、生徒自身の気づきの中にある。

6.3 実践報告

① Large Grammar を用いたライティング指導

3年生の生徒は昨年度より Large Grammar 活動を用いて学習した表現を使うためのトレーニングを行っている。この活動では、英語が苦手な生徒でも大まかな意味さえ理解すれば、どの英文とどの英文がマッチングするかのイメージがつかみやすいという利点がある。生徒に使わせたい表現を題材として、即興で話したり書いたりする活動を指示する。生徒は、指示されたチャンクがどんな場面で誰が用いる表現なのかを考え、自分の知っている語いや表現をやりくりして話したり書いたりする。授業で行った Expansion Activity と Advanced Expansion Activity を紹介する。

Expansion Activity 【基本編☆】

Date: _____ 2 - _____ NAME: _____

Lesson 3 **Rakugo Goes Overseas** 【基本編☆】

チャンク表 日本語を見て、英語に直すことができるようにしましょう。
 (基本編) チャンクを用いて、その辞彙に意味をつけ替えて新しい文法を作りましょう。

| | |
|---|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. Have you ever ...? | 1. 今までにこんなことがありましたか? |
| <input type="checkbox"/> 2. Why don't you ...? | 2. ーしませんが? |
| <input type="checkbox"/> 3. I've been interested in ... | 3. ずっとーに興味がありました。 |
| <input type="checkbox"/> 4. I wanted to ... | 4. ーしたかった。 |
| <input type="checkbox"/> 5. I'm glad to ... | 5. ーしてうれしい。 |

使用したら口に唇を入れましょう。

設定時間は5分間 目標は _____ 文 ← 自分で決めよう

| | | |
|------------------|-------------------|-----------------------|
| ☆ 基本レベル 3文 | ☆☆ 発展レベル 5文 | ☆☆☆ 達人レベル 10文以上 |
|------------------|-------------------|-----------------------|

図 1

Advanced Expansion Activity 【応用編☆】

Date: _____ 2 - _____ NAME: _____

Lesson 3 **Rakugo Goes Overseas** 【応用編☆】

チャンク表 日本語を見て、英語に直すことができるようにしましょう。
 (応用編) 1-5のうち、2つ以上のチャンクを用いて読める英語を作りましょう。

| | |
|---|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. Have you ever ...? | 1. 今までにこんなことがありましたか? |
| <input type="checkbox"/> 2. Why don't you ...? | 2. ーしませんが? |
| <input type="checkbox"/> 3. I've been interested in ... | 3. ずっとーに興味がありました。 |
| <input type="checkbox"/> 4. I wanted to ... | 4. ーしたかった。 |
| <input type="checkbox"/> 5. I'm glad to ... | 5. ーしてうれしい。 |

使用したら口に唇を入れましょう。

() ()

() ()

() ()

() () ()

| | | |
|---------------------|------------------------|-------------------------|
| ☆ 基本レベル 1パターン | ☆☆ 発展レベル 3パターン以上 | ☆☆☆ 達人レベル 4パターン以上 |
|---------------------|------------------------|-------------------------|

図 2. Advanced Expansion 活動

手順

1. チャンクのインプット活動
2. チャンクに、自分のアイデアを足して新しい英文を書く
3. ペアでシェアリング

活動の指示

1. ワークシート内のチャンクに、自分のアイデアを足して新しい英文を書く
2. 制限時間は5分間

設定時間は5分間
 目標は _____ 文 ← 自分で決めよう

例) Have you ever played soccer?

Why don't you go hopping with me?

I've been interested in basketball.

Expansion Activity 活動を繰り返すうちに生徒自身が時間内に書ける英文量を知り、現状を知ることによって今後の目標が明確になってきた。また、2つのチャンクを使えるようになってきた生徒はおのずと3つ目のチャンクを用いて新しい英文を書くようになった。

手順

1. 教師が選んだ3つのチャンクに、自分のアイデアを駆使して新たな物語（会話）を書く
2. 全体でシェアリング

Advanced Expansion Activity では、教師は生徒に何をどのように書くかを教えない。与えるのは表現のイメージと短い指示だけである。個々の生徒が持っている思考の自由度を広げるためである。活動の指示は以下のようにした。

活動の指示

1. ワークシート内のチャンクを二つ以上使って意味の通る物語（会話）を作る。
(可能であれば3つ使ってもよい)
2. 制限時間は6分間

使用したチャンク番号 (2) (3)

I've been interested in sushi. Sushi is Japanese original food. When I have a good thing, I usually go to sushi shop. I think sushi is the most delicious food in the world. Why don't you go to sushi shop with me? (42語)

(1) (2) (3)

A: Have you ever been to New York?

ワークシート例

B: No, I haven't, but I've been interested in
New York since I was a little.

A: I'll visit there tomorrow. Why don't you
go there?

B: Really? I'd love to. (35 語)

() ()

短い指示を与えることで、生徒は自分の知っている知識と表現を使って表現をやりくりする。使える語いや表現が少ないと発信したいことを伝えられないことにも気づかせることができる。そこでそれぞれの深い学びが生まれる。Large Grammar 活動の Advanced Expansion Activity で教師が指示するチャンクの数に3つが基本である。今年度の取り組みでは、指示するチャンク数を2にして取り組んでみた。チャンクを3つにすると、どうしても長いストーリーになってしまい、作成に時間がかかることもある。今年度は、短い時間でよりたくさんのストーリーを作ることを優先して指示を与えた。LG 活動は、短時間で英文を創作する活動である。実際のコミュニケーション場面と同じく、瞬時の判断力が必要である。生徒は、活動を通して、自分が多用しているチャンクを「使える表現」として確認でき、逆に使えていないチャンクは、知識として習得していても使用場面を想像しにくい、現時点では「使えない表現」として認識される。

個々が考えた英文は必ず全体に紹介しシェアリングする。個々の工夫を取り上げ、表現の巧みやつなぎ言葉など、工夫がみられる点について紹介する。生徒は他者が創作した英文を通して、自分にはない表現に気付いたり、言語の使用場面を確認したりできる。個の学びが集団での学びになるシェアリングの時間は最も大切な協同学習の場面であり、新たな思考を生み出す活動といえる。

②段階的なスピーチ指導

英文法を習得し、さまざまな表現を身に付けてきた生徒にとって、それが使えるかどうか、実際に使う場面がなければ確認できない。スピーチ活動を行うことで、英語で伝えたことが相手にどのくらい伝わるのか、また英語でどのくらい聞き

取ることができるのか、生徒たちは自身の発表をしたり、聞いたりすることで確認することができる。

今年度は、7月と11月にまとまったスピーチ原稿を書き、クラスで発表した。

教師の指示として、

- ・テーマ
- ・英語スピーチの構成（型）
- ・必ず使用する文法表現
- ・語数制限（〇〇語以上 〇〇語以下）

以上の点を指示した。生徒の自由度や発想の広がり、教師がどれだけ短い指示を与えるか、による。

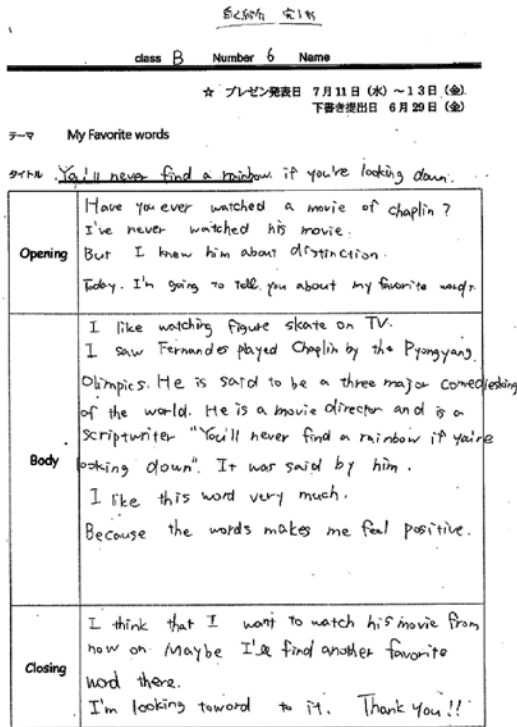
スピーチの構成の仕方としては、Opening - Body - Closing を意識した書き方を指示した。どんなテーマでスピーチを書く（話す）場合でも基本となる型を知識として習得していれば、それを使って実際の場面でも書く（話す）ことができる。

学んだ文法項目を指示して使わせることで、授業で学んだ知識がどんな場面で使えるのかを考えて表現することができる。伝えたい思いには限りがないが、語数を指示して取りませる。全員発表であり、一人2分以上のスピーチは聞き手にとって、それがいかに良いものであっても受け止めにくい傾向にあるため、語数は制限して取りませるようにした。

③クラス発表から学年スピーチへ

クラスの前で、友達を前にした発表をするのは生徒にとって大変緊張を伴う活動である。代表だけでなく、全員が同じ立場を経験することに大きな意味があり、活動を通して表現のすばらしさがわかり、英語を苦手とする友達が一生懸命に発表する姿は、クラス全体を大きな拍手で包み、発表した生徒にとってもこの上ない達成感を得られる時間となる。

クラス発表を終え、全員でスピーチを評価した後、今度は学年全体の発表会の場面で他クラスの友達の前でも発表したり、聞いたりする場面を持った。教師のやりくりは、英語を使って話す場面、聞く場面を作ること、である。生徒たちは、与えられた場面で、自分の持っている表現をやりくりして、英語を使う活動を本当に楽しんでいるように見えた。



スピーチ原稿下書き



学年スピーチ発表の様子

6.4 研究発表大会 公開授業について

新しい学習指導要領の中で英語科の4技能である、話すことが「発表」と「(即興での)やり取り」に細分化され、5つの領域で具体的な目標設定がなされた。3年生の公開授業では、導入の部分でスピーチのための発表練習をペアで行い、その評価を英語でやりとりすることから始めた。

| 現在の学習指導要領 | 平成33年度実施の新学習指導要領 |
|-----------|-------------------|
| 1. 聞くこと | 1. 聞くこと |
| 2. 話すこと | 2. 話すこと (やり取り) |
| | 3. 話すこと (発表) |
| 3. 読むこと | 4. 読むこと |
| 4. 書くこと | 5. 書くこと |

相手の発表を聞いた評価を英語でするにあたり、事前に配布してある定型リストにあるチャンクを用いて、そのチャンクを組み合わせることで定型の評価ができる。そこから段階的にチャンク表から目を話して自分の言葉で表現できるように指導した。研究授業では主活動である「指示されたチャンクを用いてまとまりのあるストーリーを書く」活動を最終的な目標として、そこに至るまでに、段階的に負荷を与えながら、短文を書くことから、つなぎ言葉や場面を意識した英作文づく

| | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 3年 (7月) ♪ 自己紹介 ♪ 私の好きなこと ♪ My favorite words ♪ | スピーチの始め方・終わり方 1. Do you like singing songs? / watching movies?.. 2. "I'm going to talk about my favorite ____." (theme). 3. I have been interested in watching American movies for 2 years. (現在完了形を含んだ自己紹介). 現在完了形を用いて、自分の現在までの状況や活動の様子について表明する.. 自分の好きな言葉を選び、理由を加えて説明する.. | (発表の仕方). ☑リスナーへの問いかけ.. ☑スピーチの始め方.. ☑スピーチの終わり方.. 現在完了形を用いて、自己紹介をする。好きな言葉とその出典なども含めて紹介する.. .. (50秒~1分30秒) .. | (内容). ロテマについて10文以上で説明できる.. 口理由づけ。 80語~150語.. |
| 2. 3年 (11月) ♪ 私の尊敬する人 ♪ | スピーチの始め方・終わり方 Opening - Body - Closing を意識した原稿づくり.. Opening 簡単な質問。 尊敬する人の紹介.. .. Body.. - どんな人か 職業 - 出身国 - 年齢.. - 何をしたら人を後置修飾を用いて人を詳しく説明する.. - 尊敬する理由.. .. Closing.. - 自分の生き方.. - 相手への提案など.. - 終わりの言葉.. | 発表の仕方). ☑リスナーへの問いかけ.. ☑スピーチの始め方.. ☑スピーチの終わり方.. .. 後置修飾を用いて、自分の尊敬する人を理由も含めて紹介する.. .. (1分から1分30秒).. | 内容.. ロテマについて15文以上で紹介できる.. 130語~250語程度.. |

3年生 スピーチ実施計画

りに取り組んだ。既習の表現をチャンクというまとまりごとに理解し、それらを使って限られた時間で英作文を書くこと、そして書いたことを相手に読んでもらったり、評価をし合ったりすることを通して、使える英語が身に付いているかどうか、生徒自身で確認できる活動となった。

本校の研究主題である「答えがあるかもわからない」に着目し、生徒たちの表現の自由度を期待して、授業では「現物」（本時ではチャンク）と「短い指示」を与えて活動に取り組ませることにした。今年度の授業公開は警報発令により、実施することはできなかったが、その後の授業において、生徒たちは英語を使ってコミュニケーションをすることに意欲的で、短い時間でさまざまな思考を巡らせて思いを表現した。実際の場面において、相手の反応はさまざまであり、多様な表現を発信・受信することを通して、相手をもっと知ろうという気持ちや文化についての関心や興味も生まれてくるように思う。生徒の表現を見ると、文法的な間違いや語いのスペルミスが少なからずある。しかし、それを上回るくらい内容は多岐に富み、感銘深い。時事ネタや社会情勢を加味した英文、場面設定がうまくメッセージ性のある会話文など、一つひとつ見ていくと、個々の生徒がどんな分野に興味を持っているのか、生徒理解することもできる。

6.5 まとめ

本校に赴任し、Large Grammar 活動を実践して4年目となった。大学の講義に参加し、理論や具体的な実践方法を教授していただく中で、この活動が中学校ではどの学年においても活用でき、入門期から難易度の高い英作文を考える際にも有効であることを学んだ。アウトプットの様々な手法がある中で、表現の自由度がある点に注目している。

本校の研究主題「自立し、つながり、探求し、創造する力の育成」の副題に、「やりくりのたとえ」がある。生徒のやりくりと共に、教師自身

のやりくりをいかに行うか、である。授業で答え方、表現の定型を与えることの重点をいかにして、生徒の自由な発想を引き出し、表現の幅を広げるためにやりくりしたいと考えている。英語は「使えてなんぼ」である。授業や学びの中で習得した知識を使う場面を作ることで、「失敗を繰り返すことでしか得られないこと」が経験させたいと考える日々である。

今後、求められることは「正しい知識をできるだけたくさん効率的に学習すること」ではなく、正解のない問い、あるいは解が定まらない問いに最適な答えを考えて発信できる力なのではないだろうか。生徒が何とか英語で伝えようとする毎時のやりくりに拍手を送りつつ、どうしたら、英語を使う必要感にせまれるのか、あれこれ考えながら授業に臨む日々である。日々のインプット活動や定期的なアウトプットの活動をバランスよく授業に組み込んでいく、教師自身のやりくりを忘れないように授業づくりをしていきたい。

7. 【参考文献】 著者（発行年）『タイトル』出版社の順

- 足立和美（2016）『地域教育学研究 8 巻 1 号』鳥取大学地域教育学科
- 足立和美（2014）『地域教育学研究 6 巻 1 号』鳥取大学地域教育学科
- 澤井陽介（2017）『授業の見方』東洋館出版社
- 藤村宣之ほか編（2018）『協同的探求学習で育む「わかる学力」』ミネルヴァ書房
- 阪田真己子（2019）『英語教育 1 月号』大修館書店
- 泉恵美子・門田修平編著（2016）『英語スピーキング指導ハンドブック』大修館書店
- 広瀬友紀（2017）『ちいさい言語学者の冒険—子どもに学ぶことばの秘密』
- 木村達哉（2017）『中学英語まるまるリスニング BOOK 基礎』
- 佐藤洋一（2015）『English Journal 4 月号』



平成30年度 鳥取大学附属中学校

英語科 学習指導案

平成30年7月6日(金)



公開学習Ⅰ 9:40～10:30

「チャンクでやりとり」 ～L G活動を通して～

授業者 竹川由紀子 会場 3年D組教室



公開学習Ⅱ 10:40～11:30

私の英語が海を渡る!

～国際交流を活用した、自己表現活動の可能性～

授業者 石田 順 会場 1年C組教室



研究協議会 11:45～12:45

会場 1年C組教室



(公開授業Ⅰ) 第3学年D組 英語科学習指導案

授業者 竹川 由紀子
3年D組教室

1 題材名 The Story of Sadako (New Crown English Series 3, Lesson 4)**2 教科・題材における「やりくりのたとえ」**

新しい学習指導要領では、英語の技能の一つである「話すこと」が「発表」と「やり取り」に細分化され、5つの領域で具体的な目標設定がなされた。3年生では「話すこと：発表」の取り組みとして、単元ごとに学習した表現を用いてスピーチ活動を定期的に行ってきた。少ない語数のスピーチから始め、段階的に語数や使用する表現を増やしていくことで、生徒も意欲的に取り組んでいる。一方、「話すこと：やり取り」を行うと、多くの生徒が、相手との対話の中で自分に対して聞かれたことにはおおむね正確に答えることはできるが、相手の言ったことに対して自分できちんと受け止め、それに対する感想を伝えたり何かを提案したりすることには難しさを感じており、即興でのコミュニケーションの難しさを感じる場面が多く見られる。

本単元では、既習文法である受け身形や it ... for ... to~の構文や make AB/ call AB の第5文型を扱い自己表現活動へとつなげていく。それらが含まれる英文をチャンクごとに区切り、インプットしてから、生徒が短時間にどのくらいの数の英文を「書くこと」ができるかの活動を行う。本時は、その活動を通して英文を「書くこと」から相手の書いた英文を「読むこと」へ、そしてそれについて自分の考えを「話すこと」へと発展させていきたい。

英作文の指導にあたっては、鳥取大学地域学部の足立和美先生が提唱されている Large Grammar を利用した活動を授業の中に仕組んだ。この活動は、英語の苦手な生徒でもチャンクの意味を理解し場面を想像する中で、後に続く表現を連想しやすく英文を広げやすいというメリットがある。時間をかければ多くの生徒にとってそれは可能なことだが、辞書を利用したり友達に尋ねたりすることなしで書くことによって、正しく表現できることと、そうでないことがはっきりわかる。また、ペアで互いに作品を読みあうことで、自分にはない発想に触れれば、また新しい表現につながる。自分の意見を全体にシェアすることで、その表現をヒントにさらに良いものにしようとする生徒もある。本時で扱うチャンクを用いた英作文のように少し発展的な課題を与えることで知的好奇心を刺激し生徒のやる気を奮起させ、「よりよきものを創造する」という生徒自身のチャンクを使った「やりくり」に期待したい。また、生徒が創作した英文をペアや全体でシェアした後、生徒自身が感銘を受けた英文にコメントや感想を込めて言う活動を通して、一方向でない、相互にやり取りのできる活動にしていきたい。

(1) 教師と教材

学習指導要領では、(思考力、判断力、表現力等)に関する項目での外国語の目標は次のように設定されている。

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

本時は、アイウの事項のうち、次の内容を扱っている。

ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり、書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。

ここでは、相手が話したり、書いたりした内容にも十分に注意を傾けながらやり取りをし、お互いの理解を深められるようにしていくことが重要であるという意味が含まれている。一般的に、知っている単語が多ければ多いほど、表現できる幅は広がっていくはずである。だから、表現活動やコミュニケーションにおいて、語彙や表現の仕方を知り（インプットして）いつでも、使える、話せる（アウトプットできる）状態にしておくことは必要である。しかし、中学生が理解している語彙の中で、実際の場面で表現できる語彙は決して十分でない。だから、帯学習や家庭学習で時間をかけて十分にインプット活動を行う。そして、その表現の使用場面を考えさせながら英文づくりに取り組んできた。

（２）子どもと教師

本学年の生徒は、英語を使ってやりとりをすることが好きである。昨年度は、国際交流を行っているイギリス人生徒との交流の場面があり、英語を使って積極的にやりとりを楽しんだ。実際に外国人と英語を使って交流する場面は少ないものの、授業の中でできるだけ実践的なコミュニケーションの場面を設定することが重要となる。

単元ごとの表現を用いたスピーチの活動では、定型の「Opening →Body →Closing」を参考にテーマに沿って、自分の伝えたいことを表現する。2年生までは、「発表すること」の一方向での表現を行ってきたが、3年生では「発表すること」と「感想を伝えること」の相互のやり取りができるような活動へと段階を上げながら、生徒が互いに英語でやり取りできる内容を増やしたいと考えている。

（３）子どもと教材

本単元では、広島原爆や核兵器と平和の問題を取り扱っている。平和な社会は自分たちで作り、守っていかなければならないことを考えさせる大切な単元である。小学生で命を落とした佐々木禎子さんの人生と平和な日本の中で過ごしている自分との対比を通して、平和の尊さを考えさせたい。

本時の活動の目標の一つは、『3つのチャンクを用いて、物語（または会話）を書くこと』である。生徒は、自分の知識の中にある語彙をどのくらい引き出して英文を作ることができるのか。そのためにどんな場面を設定し、どんな表現が適切であると判断し、使うのか。限られた時間の中で、語彙や表現を思い浮かべては、英文をふくらませていく生徒一人ひとりの思考の中は、教師が予想もできないほどのストーリーが展開される。英作文の指導にあたっては、鳥取大学地域学部の足立和美先生が提唱されている Large Grammar を利用した活動を授業の中に仕組んでいる。チャンクを組み合わせることから段階的にレベルを上げて、創作を楽しみながら英文をふくらませていけること、時間を区切って活動させることで即興性が身につくことなどがこの手法の利点である。

指導にあたっては、短い時間で自分の知っている語彙や表現を使って英作文するように指示する。発展的課題を指示することで、個々の知的好奇心が刺激されることを期待したい。チャンクが使われる場面を想像して、その情景や会話を表現することで生徒の思考がフル活用しながら、工夫を凝らした英文が描かれていく授業を展開したい。

3 単元目標

- 積極的にスピーチや要約に取り組んでいる。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- call/make+A+B や, It~(for A)+to... に関する知識を身につけている。
(言語文化についての知識・理解)
- 物語を読んで、その概要を読み取ることができる。 (理解の能力)
- (時を表す語句を使って、) 物語の要約文をできごとの順に書くことができる。 (表現の能力)
- 相手の英文を聞いたり読んだりして、自分の意見を伝えながら会話を広げることができる。
(表現の能力)
- チャンクに既習の語彙を加えて、物語を書くことができる。 (表現の能力)

4 学習計画 (全9時間)

| | | |
|-----|---|-----------------|
| 第1時 | make A B , call A B の用法の理解と表現活動 | … 1 時間 |
| 第2時 | it… for… to… の文の用法の理解と表現活動 | … 1 時間 |
| 第3時 | GET Part1 広島原爆についての理解 | … 1 時間 |
| 第4時 | USE Read 内容理解 佐々木禎子さんの一生と原爆の子の像の由来について | … 1 時間 |
| 第5時 | USE Read 内容理解 平和を希求する人々の活動について | … 1 時間 |
| 第6時 | チャンクを用いた表現活動 | … 2 時間 (本時 2/2) |
| 第7時 | 物語の要約 | … 1 時間 |
| 第7時 | 物語の要約発表 | … 1 時間 |

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- チャンクに既習の語彙を加えて、物語を書くことができる。 (表現の能力)
- 相手の英文を読んで、自分の意見を伝えながら会話を広げることができる。 (表現の能力)

(2) 期待される生徒の様相

「書くこと」の場面 (チャンクを用いて英文を書く活動)

- A) チャンクを3つ以上用いて、英文を書くことができる。チャンクの表現が使われる場面を理解し、自分の知っている語彙と組み合わせて英文を書くことができる。
- B) チャンクを2つ以上用いて英文を書くことができる。チャンクの表現が使われる場面を理解し、自分の知っている語彙と組み合わせて英文を書くことができる。
- C) チャンクを2つ以上用いて英文を書くことができる。チャンクに自分の知っている語彙を組み合わせて英文を書くことができる。

「話すこと（やり取り）」の場面 （相手の書いた英文を読んで評価をする活動）

- A) 相手とアイコンタクトを取りながら、会話を行うことができる。相手の英文を読んで、具体的な理由を含めて自分の感想を順序立てて述べるができる。
- B) 相手とアイコンタクトを取りながら、会話を行うことができる。相手の英文を読んで、理由を含めて自分の感想を述べるができる。
- C) 相手とアイコンタクトを取りながら、会話を行うことができる。相手の英文を理解し、定型を確認しながら感想を述べるができる。

(3) 本時における「やりくり」

- ・ 「話すこと」（発表）の活動で、スピーチを行っている。本時では、そのスピーチに向けた発表練習をペアで行う活動を W-up に取り入れている。相手の発表を聞いて、その感想を英語で伝えるという即興のやり取りでは、生徒が自分の考えを（定型のチャンクを参考にしながら）どのように広げられるか、ヒントとなるチャンクの提示の仕方を工夫したい。
- ・ 「書くこと」の活動では、チャンクの意味を理解した上で、使われる場面を想像しながら、短時間でどれだけの英文を書くことができるかに期待したい。
- ・ 「書くこと」の発展的な活動では、チャンクを複数使った英文づくりに取り組ませる。まずは2つのチャンクを使うことを目標にしながら、徐々に目標を上げていき、個々の想像力とともに英文が広がっていくよう支援したい。

本時の展開

(○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

| 学習活動 | 教師の支援・意図 ※評価 |
|--|---|
| 1. あいさつ | ○ リラックスした雰囲気です授業を始める。 |
| 2. W-up アウトプット活動① (ペア) ・スピーチを聞いた感想を伝える | ◇ スピーチを聞いた感想を述べるよう指示する。発表を聞いて感じたことをできるだけ即興でやり取りさせる。 ◆ 評価の仕方がわからない生徒には評価の仕方を見て評価を与えるよう指示する。 |
| 3. アウトプット活動② (個人) ・英文を引き伸ばす 英作文 <div data-bbox="300 846 671 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">チャンクに自分の知っている語や表現を加えて英文を書く</div> | ◇ 単元で学習したチャンクに自分の知っている語いや表現を加えてできる英文を書くように指示する。 ○ 辞書を引いたり、間違いを気にしたりせず、多くの英文を書くことを指示する。 |
| 4. アウトプット活動③ (個人) ・英文をふくらませる <div data-bbox="300 1122 671 1234" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">チャンクを使って創作英文(会話文)を書く</div> | ◇ リストの中のチャンクを2つ以上使ってそれらを含んだ英文を書くことを指示する。 ◆ 前の活動で考えた英文から内容を広げるよう指示する。 |
| | ※ チャンクに自分の知っている語いや表現を加えて英文を書くことができているか (表現の能力 書くこと) |
| 5. シェアリング (全体) | ○ 何人かの生徒が、自分が作った文を発表する。 ◇ 生徒が言った英文を繰り返し、全体にわかりやすく伝えるようにする。 |
| 6. シェアリングと評価 (ペア) | ○ 作った英文をお互いに音読(黙読)する。交互に読み合い、お互いの文について感想を言い合う。 ◆ 評価の仕方がわからない生徒には黒板に掲示されたポスターを見てもよいことを指示する。 ※ 相手の考えた英文を聞いて、感想を伝えながら会話を広げることができる。(表現の能力 やり取り) |

Lesson 4 The Story of Sadako

【基本編☆】

チャンクを用いて、その前後に英文をつけ加えて新しい英文を作りました。

| | |
|--------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. ... we call A B ~ ... |
| <input type="checkbox"/> | 2. ... make(s) me happy ... |
| <input type="checkbox"/> | 3. ... it's important for me to ... |
| <input type="checkbox"/> | 4. ... it's easy for me to ... |
| <input type="checkbox"/> | 5. ... If you (make) a thousand ... |

| | |
|----|--------------------|
| 1. | ~ AをBと呼びます~ |
| 2. | ~ 私をうれしくする~ |
| 3. | ~ 私が...することは大切である~ |
| 4. | ~ 私が...することは簡単である~ |
| 5. | ~ 1,000の〇〇を作ったら~ |

使用したら口に☑を入れましょう。

設定時間は5分間 目標は _____ 文 ← 自分で決めよう



☆



基本レベル 3文

☆☆



発展レベル 5文

☆☆☆



達人レベル 10文以上

sentences

Lesson 4 The Story of Sadako

【応用編☆☆】

下のリストより、2つ以上のチャンクを使って英文を書きましょう。

チャンクの前後に語いや表現を加えて大まかに意味の通る英文を書きましょう

制限時間 (6) 分間

| | | |
|--------------------------|----|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. | … we call A B ~ … |
| <input type="checkbox"/> | 2. | … make(s) me happy … |
| <input type="checkbox"/> | 3. | … it's important for me to … |
| <input type="checkbox"/> | 4. | … it's easy for me to … |
| <input type="checkbox"/> | 5. | … If you (make) a thousand … |

| | |
|----|------------------|
| 1. | ~ AをBと呼びます~ |
| 2. | ~ 私をうれしくする~ |
| 3. | ~ 私が…することは大切である~ |
| 4. | ~ 私が…することは簡単である~ |
| 5. | ~ 1,000の〇〇を作ったら~ |

使用したら口に☑を入れましょう。

| |
|-------------|
| () () |
| |
| |
| |
| () () |
| |
| |
| |
| () () () |
| |
| |
| |

英文を読んで感想を伝える

Ex) I think this story is the best of all. (Please draw ☉ on the story.)

Because

Your friend; _____

(公開授業Ⅱ) 第1学年C組 英語科学習指導案

授業者 石田 順

1年C組 教室

1. 単元名 自己紹介をしよう (New Crown English series 1, Project 1)

2. 教科・単元で提案する「やりくりのたとえば」

本校では2014年度から英国ニューステッドウッドスクールとの交流事業を行っている。両国の生徒が普段の外国語を学ぶ授業で取り組んだ自己紹介文や表現活動で作成したワークシートなどを定期的に送り合ったり、個人的な手紙のやりとりといったペンパル活動を日常の活動として取り入れている。また2015年度と2017年度には英国生徒が来日し、交流授業にも取り組んできた。これらの活動を通して、本校生徒には英語が単なる教科として学ぶというだけでなく、コミュニケーションツールであることも実感し、積極的に表現活動に取り組む姿が多くみられるようになった。

2000年より小学校でも外国語活動が導入され、現在在籍している中学1年生も、小学校ですでに様々な英語表現を習得して入学してきた。入学当初より英語への関心はどの生徒も高く、本校で行っている国際交流事業についても、非常に興味をもって早く取り組みたいという意欲を見せている。現段階では限られた語彙と文法的な知識しか持ちあわせていないが、生徒の表現したい、英国の生徒と英語を通してつながりたいという強い意欲をより一層高めていくために、早くから交流活動にも取り組むこととした。

1年生の教科書「Lesson 1 I am Kumi」に相手の言った言葉を聞き返す場面がある。登場人物の台詞は「Pardon?」だが、pardonにはそもそも『もう一度言ってください。』という意味はない。本来の意味は『すみません。』と許しを請う意味である。自分が言った言葉に対して「すみません」と答えられたら、言った方は「自分の言葉が聞き取れなかったのでは」と考え再び言い直すのである。

そのことを授業で確認すると、生徒から「では、ほかの『すみません』でも意味が通じるのでは?」とのつぶやき上がる。そこで、どのような言葉がここで当てはまるか考えさせると、Excuse me?やI'm sorry. がすぐさま思い浮かぶのである。生徒はこの瞬間に英語が生きた言葉であることを実感する。その経験を踏まえた生徒は、このあと自分が表現する言葉に対して、機械的な翻訳をするのではなく、その表現がどう相手に届くかを考えながら表現しようとする。これまで小学校で培った外国語活動の経験や入学してから現在までの英語の授業で得た様々な知識や表現を駆使し、時・場そして相手を考えた生きた英語表現を用いてコミュニケーションを取ろうとすることが、教科における「やりくり」なのではないだろうか。

(1) 教師と教材

これまでbe動詞や一般動詞を用いた表現を学習してきた。本単元ではそれらを活用し、自分の言葉で自分の事を表現する活動である。今回は生徒がつくった自己紹介を英国に送ることも伝え、この紹介文が単なる表現学習の1活動で終わるのではなく、英国の生徒との架け橋になることも知らせたい。伝える相手を意識させた本活動は、これから始まる英国との国際交流事業のきっかけにもなり、生徒が意欲的に取り組むことも容易に想像できる。グループ活動やデジタル機器なども活用しながら、生徒自身が自分の英語表現を吟味したり、お互いに評価し合える活動にもつなげられることから、本単元が今後の学習に及ぼす影響も大きい。

(2) 子どもと教師

入学当初の英語の授業で、これまで取り組まれてきた本校の国際交流事業について説明を行った。英国の生徒との交流は生徒にとって憧れであり、楽しみにしている様子も見られた。お互いのつながりを深めていくために必要な言語が英語であり、そのためにも普段の授業で語彙や表現に関わる文法事項など、いわゆるインプット活動を充実させていくことを生徒とともに確認している。自分が書いた英文に対して、外国の人がリアクションをしてくれることに喜びを感じ、自分の英語力を研こうと努力する生徒の姿も見られる。改めて教師の役割は、場面ときっかけを与えることであり、そうすることで生徒は自ずと学ぼうとする姿勢をもつと確信している。

(3) 子どもと教材

生徒にとって英語を学ぶ目的は、「相手の英語を分かりたい」ということと「自分の考えや意見を英語で伝えたい」であろう。これまでの学習では、表現できるためのインプット活動を中心に行ってきたが、この単元でいよいよ自己表現活動に取り組んでいく。初期の学習者にとって、英語で自分の事を表現できることは、他国の人にも自分の事を分かってもらえるという喜びにもつながり、今後の学習への意欲にもつながってくると期待できる。生徒1人1人が持っている「分かりたい」「伝えたい」という気持ちを大切にしながら、教科書にとらわれず幅広い表現活動にも取り組んでいきたい。

指導にあたっては、本校が国際交流事業で関わっている英国のニューステッドウッドスクールの生徒から届いたメッセージや日本語の学習をしている様子などを紹介し、これから自分たちが英語で表現しようとする相手を具体的にイメージさせたい。年齢・性別・文化の違いなど様々な背景を具体的に理解した上で、どのような英語表現をするのがいいのか、ペア活動なども用いながら考えさせたい。英語が「生きた言葉」であることを常に意識しながら、様々な英語表現を吟味（やりくり）させていく。また表現方法については、ライティングとスピーキングで取り組ませる。書くこと、話すこと、それぞれに難しさがあるが、実際に体験することでその難しさなども共有していきたい。

3 単元目標

- ・まちがうことを恐れず、積極的に自己紹介のスピーチをしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・事前に考えたアイデアをもとに、自己紹介のスピーチ原稿を書いたり、発表したりできる。(表現の能力)
- ・友達の自己紹介文が理解できる。(理解の能力)

4 学習計画(全4時間)

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 第1時 | モデルの文を読んでアイデアをまとめよう・・・1時間 |
| 第2時 | 自己紹介を書こう・・・1時間 |
| 第3時 | 実際に手紙を書いたり、ビデオレターをつくろう・・・1時間(本時) |
| 第4時 | まとめ・・・1時間 |

5 本時の学習について**(1) 本時の目標**

事前に考えたアイデアをもとに、自己紹介のスピーチ原稿を書いたり発表したりできる。(表現の能力)

(2) 期待される生徒の様相

A) 事前に考えたアイデアをもとに、届ける生徒のことを考えながら、よりよい英文を書くことができる。

また発表ではWell, you knowといったつなぎ言葉を用いながら発表することができる。

- B) 事前に考えたアイデアをもとに、届ける生徒のことを考えながら、意味の通る英文を書くことができる。また発表では、発音やイントネーションなどにも気を付けながら、発表することができる。
- C) 事前に考えたアイデアをもとに、教科書のモデルの英文を参考にしながら英文を書くことができる。また発表では正しい発音を意識しながら発表することができる。

(3) 本時における「やりくり」

- ・教科書のモデル文を参考にしながらも、学校紹介や日本文化の紹介を盛り込むといったように、内容を吟味したり構成や表現に工夫を加えて自己紹介をしようとする態度に期待したい。
- ・発表では、単に英文の朗読とするのではなく、ペアやグループを活用しながら、お互いに自己紹介を批評し合い、よりよいものに仕上げようとする態度を育てたい。

(4) 本時の展開(○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援 ※評価)

| 学習活動 | 教師の支援・意図・評価 |
|--|--|
| 1. ウォーミングアップ | ○帯活動に取り組み、英語を学習する雰囲気をつくる。 |
| 2. インプット活動 ・ これまでに学習した英文を確認 ・ いくつかの英文に自分のアイデアをつなぎ合わせて、新たな英文を創る活動 | ○なるべく生徒 1 人 1 人の個性がでるような英文が考えられるよう、意図を持って語句を提示したい。 ◇まずはしっかり書かせ、その後ペア活動で表現させたい。 ◆英文を創ることが苦手な生徒は、提示されたフレーズをつなぎ合わせるだけの表現活動をまずは目指したい。 |
| 3. アウトプット活動 ・ 自己紹介を完成させ、紹介文の原稿をもとに、自己紹介スピーチにも取り組む。 | ○スピーチでは、つなぎ言葉などにも意識させ、常に相手に言葉届けるのだという姿勢をもたせたい。 ○教科書のモデル文を参考にしながら、学校紹介を盛り込むなど、その構成や表現などのやりくりを意識させたい。 ◇ペアやグループを活動して、事前に用意した自己紹介文を相互で吟味し、よりよい原稿にするよう声かけをする。 ◆それぞれの自己紹介原稿をシェアしながら、他の生徒でまねできそうな表現は積極的に活用させたい。 ※事前に考えたアイデアをもとに、自己紹介のスピーチ原稿を書いたり発表したりしているか(表現の能力) |
| 4. まとめ | ○完成したスピーチ原稿や動画をシェアしながら、再度自分の自己紹介文を振り返り、修正などを加えつつ、個への活動に返していきたい。 |

Time Shock

時間内にペアでたくさん英語を話そう

| | | | |
|----|-----|---------------------|--|
| 1 | □□□ | はじめまして | Nice to meet you. |
| 2 | □□□ | あなたはオーストラリア出身ですか。 | Are you from <u>Australia</u> ? |
| 3 | □□□ | またね。 | See you. |
| 4 | □□□ | これは何ですか。 | What is this? |
| 5 | □□□ | それはとても古いです。 | It is very <u>old</u> . |
| 6 | □□□ | それはおもしろいですね。 | It is <u>interesting</u> . |
| 7 | □□□ | 彼女は剣道が得意です。 | <u>She</u> is good at <u>kendo</u> . |
| 8 | □□□ | 英語は月曜日にあります。 | <u>English</u> is on <u>Monday</u> . |
| 9 | □□□ | 今何時ですか。 | What time is it now? |
| 10 | □□□ | 8時です。 | It's eight o'clock. |
| 11 | □□□ | 私はカバンにボールを持っています。 | I have a <u>ball</u> in my <u>bag</u> . |
| 12 | □□□ | 私はサッカーがとても好きです。 | I like <u>soccer</u> very much. |
| 13 | □□□ | 私はサッカーを毎日学校でします。 | I <u>play soccer</u> at <u>school</u> every day. |
| 14 | □□□ | あなたは音楽が好きですか。 | Do you like <u>music</u> ? |
| 15 | □□□ | あなたは手に何を持っていますか。 | What do you have in your hand? |
| 16 | □□□ | 私は日本食がとても好きです。 | I like <u>Japanese food</u> very much. |
| 17 | □□□ | あなたはどのような食べ物が好きですか。 | What <u>food</u> do you like? |
| 18 | □□□ | 私は時々家族のために料理をします。 | I sometimes <u>cook</u> for my family. |
| 19 | □□□ | トイレはどこにありますか。 | Where is the <u>restroom</u> ? |
| 20 | □□□ | 私はおにぎりを4つ持っています。 | I have <u>four rice balls</u> . |